



この調査は、SDGsの「6 安全な水とトイレを世界中に」「11 住み続けられるまちづくりを」に資するものです。

2024年8月30日（金）
愛知県環境局環境政策部
水大気環境課生活環境地盤対策室
地盤沈下対策グループ
担当 関本、新谷
内線 3051、3052
ダイヤル 052-954-6224

2023年愛知県地盤沈下調査結果について

地盤沈下とは、私たちが日々生活を営んでいる大地が、知らないうちに、徐々に広い範囲で沈んでいく現象で、過剰な地下水のくみ上げが大きな原因であることがわかっています。

愛知県では、1959年の伊勢湾台風により広域で地盤沈下の存在が認識されたため、1961年から関係機関と協力し、濃尾平野の地盤沈下の状況を観測・調査しています。

この度、国土交通省、名古屋市及び名古屋港管理組合と協力して実施した水準測量^(注1)、地下水位等の調査結果を基に、2023年の県内の地盤沈下の状況について、以下のとおり取りまとめました。

○ 概要

県内の地盤沈下は、全般的に見て、地下水揚水量の減少に伴う地下水位の^{ようすい}上昇により、おおむね沈静化の傾向にあります。

○ 水準測量結果（地盤沈下の状況）

2023年の水準測量は、尾張・名古屋市地域及び西三河地域において実施しました。

<尾張・名古屋市地域>

前回(2022年)の測量結果と比較した結果、有効水準点560点のうち1年間で1cm以上沈下した水準点はありませんでした。

<西三河地域>

前回(2021年)の測量結果と比較した結果、有効水準点53点のうち1年当たりで1cm以上沈下した水準点はありませんでした。

○ 地下水位調査結果

2023年の尾張地域、西三河地域及び東三河地域の地下水位は、昨年と比べおおむね同程度でした。

○ 地下水揚水量集計結果

2023年度の地下水揚水量は、昨年度と比べ僅かに減少しました。

(注1) 水準測量：水準点間の高低差を測定し、水準点の標高を求める作業

1 水準測量結果（地盤沈下の状況）

2023年の水準測量で求めた水準点の標高を2022年（西三河地域は2021年）と比較し、沈下状況を把握しました。

（1）尾張・名古屋市地域

- ・有効水準点560点のうち、1年間で1cm以上沈下した水準点はありませんでした。
- ・年間最大沈下量は、名古屋市港区千鳥二丁目1-51先の0.83cmであり、最近5年間の最大累積沈下量は、愛西市森川町村仲の3.17cmでした。

（2）西三河地域

- ・有効水準点53点のうち、1年当たりで1cm以上沈下した水準点はありませんでした。

2 地下水位調査結果

地盤沈下と密接な関係にある地下水位の変動状況を把握するため、県内36か所（93井）の地盤沈下観測所で常時監視しています。また、県内90井（うち有効数^{（注2）}83井）の他機関設置観測井では、毎月1回地下水位の観測を実施しています。

2023年の地下水位調査結果において、尾張地域、西三河地域及び東三河地域の地下水位は昨年と比べおおむね同程度でした。

（注2）有効数：調査対象井戸の変更等により前年との比較ができなかった井戸を除いた数を示す。

（1）尾張地域（揚水規制区域内）

- ・地盤沈下観測所（23か所）では、69井中42井において水位が上昇しました。
- ・他機関設置観測井では、55井中45井において水位が上昇しました。
- ・年平均水位は昨年と比べおおむね同程度でした。

（2）尾張地域（揚水規制区域外）・知多地域

- ・他機関設置観測井では、11井中7井において水位が下降しました。
- ・年平均水位は昨年と比べ下降傾向でした。

（3）西三河地域

- ・地盤沈下観測所（7か所）では、14井中8井において水位が下降しました。
- ・他機関設置観測井では、11井中6井において水位が上昇しました。
- ・年平均水位は昨年と比べおおむね同程度でした。

（4）東三河地域

- ・地盤沈下観測所（6か所）では、10井中5井において水位が下降しました。
- ・他機関設置観測井では、6井中4井において水位が上昇しました。
- ・年平均水位は昨年と比べおおむね同程度でした。

3 地下水揚水量集計結果

水量測定器の設置義務を有する区域では地下水揚水量を把握するとともに、尾張地域の揚水規制区域では揚水許可量の遵守状況を監視しています。

2023年度の地下水揚水量集計結果は、日平均揚水量は701千 m^3 で、昨年度に比べ19千 m^3 減少しました。

(1) 尾張地域（揚水規制区域内）

・日平均揚水量は254千 m^3 で、昨年度に比べ6千 m^3 減少しました。

(2) 尾張地域（揚水規制区域外）・知多地域

・日平均揚水量は66千 m^3 で、昨年度に比べ3千 m^3 減少しました。

(3) 西三河地域

・日平均揚水量は164千 m^3 で、昨年度に比べ9千 m^3 減少しました。

(4) 東三河地域

・日平均揚水量は218千 m^3 で、昨年度に比べ1千 m^3 増加しました。

4 今後の対応

県内の地盤沈下は、おおむね沈静化の傾向にあります。しかしながら、渇水時には^{かんよう}涵養量^(注3)の減少や揚水量の増加によって地下水位が急激に低下し、広範囲な地盤沈下の発生する可能性が依然としてあることから、引き続き地盤沈下・地下水位の監視や地下水の揚水規制等を実施し、地盤沈下の防止に努めていきます。

(注3) 涵養量^{かんよう}：降雨や河川水などが地下の帯水層に浸透した水量

5 その他

調査結果の詳細については、以下の県水大気環境課のWebページに掲載しています。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/mizutaiki/jibanchinka2023.html>

<参 考>

- 1 愛知県では、国が策定した濃尾平野地盤沈下防止等対策要綱に基づき、国土交通省、名古屋市及び名古屋港管理組合と協力して水準測量を実施しており、尾張地域の水準測量結果は名古屋市地域を含め、尾張・名古屋市地域として結果を取りまとめ、公表しています。
- 2 水準測量は基準日を定めた調査（尾張地域：11月1日、西三河地域：9月1日）であること及び地下水位調査は暦年の調査であることから、調査期間を暦年としています。一方、地下水揚水量調査は当該年度の揚水量を集計したものであり、調査期間を年度としています。